戸苅晴彦教授のご退職にあたって

法学部長　酒井　正文

専攻分野は異なりますが、戸苅晴彦先生からは、大学で教育研究に携わる者のあり方を学ばせていただいたように思います。教師として真摯に学生に向き合い、研究者として片時も手を抜くことなく、大学組織の一員として誠実に職務に精励される、そのような先生と職場をご一緒できたことに感謝したいと思います。

戸苅晴彦先生は、昭和11年10月のお生まれで、昭和34年東京教育大学体育学部をご卒業。昭和47年東京大学教養学部講師、さらに助教授を経て、平成元年同教授にご昇任。平成9年に定年退職（東京大学大学院生命環境科学系名誉教授）されると直ちに平成国際大学スポーツ科学研究所教授に就任されました。平成12年4月からは、法学部教授として、「レジスタンストレーニングの理論と実際」、「コンディショニングの科学」、「スポーツ科学概論」などの科目をご担当いただきました。

戸苅先生は、サッカーを中心にスポーツ科学分野研究の第一人者として、日本体育学会、日本体力医学会、日本スポーツ方法学会等で活躍されてこられました。実践面ではサッカー日本代表チームのフィジカル面をサポートされたほか、日本サッカー協会科学研究委員会委員長、同協会特任理事、さらに埼玉県サッカー協会理事、同体育協会スポーツ科学委員会委員など、わが国サッカー界、スポーツ界において数々の貢献がございます。業績には、『21世紀の体育・スポーツ科学の発展—第2巻』、『最近サッカー百科事典』、『サッカー文化の構図』、『バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎』などの著書のほか、スポーツ科学に関する優れた多数の学術論文、学会報告等が知られています。

本学で戸苅先生を語るときには、最初にスポーツ科学研究所について触れなければなりません。先生は、佐藤前理事長のバックアップの下、同研究所を立ち上げ、本学のスポーツ科学の研究推進と一般学生の体力向上、運動部に対する科学面からのサポートなどに努められました。研究活動では、若手教員を強力に先導され、その成果を様々な形で学内外に発信していただきました。運動部には様々な測定結果に基づいて科学の目で大変有益なご支援をいただき、また各部員たちも好んで先生の授業を履修して、文字通り膝下で学ばせていただきました。さらに県内外の各種スポーツ指導者研修会の講師や児童生徒の体力向上に関する各種の助言者・指導者として、地域スポーツの振興活動を通じて、本学と社

会との連携にも尽力されております。

失礼を顧みず申し上げれば、お年を感じさせない戸苅先生には、お人柄に甘えて、学内では学生部長と法政学会研究委員長をそれぞれ3年間務めていただくなど、多くの委員をお願いしてきました。とくに学生部長としては、FOCの統括や運動部協議会の発足、課外活動の指導と振興、学生のメンタルケアーの問題など様々な学生支援活動にご尽力をいただきました。学会研究委員長としては、コンスタントに研究会を開催していただき、内側から本学の学術活動に刺激を与えて下さいました。

平成20年度から、本学は学則を改定して、法学部に「スポーツ福祉政策コース」というユニークな履修コースを開設しましたが、これは申し上げるまでもなく、戸苅先生がスポーツ系の先生方を束ねて可能となったことであります。開設準備において、たびたびお目に掛かり、膝を交えて話しあったことなど、私にとりましても大変勉強になりました。

戸苅先生は、本学サッカー部の部長として、指導者の配置やグラウンドの施設整備に奔走されるなど、同部の育成強化の先頭に立たれてきました。そして試合の現場には、必ず足を運ばれ、直接激励されていると聞いております。サッカーをこよなく愛され、膝下の学生たちに真摯に向き合う先生のお姿とお人柄には敬服の思いを抱きます。

先生の在職中、つい甘えて様々な学務のご負担をお掛けしてきました。しかし、いつも謙虚で誠実に務めていただき、時に温かく、時に必要なご助言まで頂戴しました。本当に感謝に堪えません。本年度をもって、先生がわが大学を去られるのは、大変お名残惜しい限りです。定めにより致し方ありませんが、如上のような、先生が本学に残された多大なご功績に重ねて感謝しながら、ご退職後のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。